

かお・人インタビュー

2016年1月29日(金)

国土交通省九州地方整備局 福岡国道事務所

横峯 正二 所長に聞く



福岡県内の国道6路線を所管する福岡国道事務所。平成27年度当初の改築事業費は、前年度当初比8%増の115億3,200万円で、道路改築費の比率が高いのが特徴。中でも、地域高規格道路の「国道208号有明海沿岸道路」は一大プロジェクトであり、大牟田～大川間の県内4市を結ぶ区間の平成29年度開通を目指す。平成15年に全国で初めて、職員26人のプロジェクトチームとして「有明海沿岸道路出張所」が設置され、初代出張所長に就任したのが現福岡国道事務所長の横峯正二氏。平成28年の新春の所長インタビューとして、福岡国道事務所管内の事業内容や道路づくりについて話を聞いた。

——福岡国道事務所長としての抱負を

福岡国道事務所管内の30市町村(17市12町1村)の地域がもっと元気になるように、直轄でできることについて最大限に努力していきたいと思えます。現在、事業中の事業については、1日でも早く、供用、完成させ、橋梁等の老朽化対策も計画的にかつ迅速に進めていきます。

また、身近で早期効果発現が期待できる交差点改良や歩道設置事業については、地元首長さん等のご要望をしっかり伺い、早期事業化に努め、橋梁等の予防保全、

老朽化対策等についての人不足、技術力不足、予算不足の市町村に対しては、情報の共有化、講習会、直轄診断等さまざまな側面から技術的支援を行っていきたく考えています。

運営方針については、「事業の見える化」として、“福岡国道Facebook”で普段やっていることや事業の進捗状況等を積極的に、かつタイムリーに情報発信しています。また、「業務のSPEED UP化」(より早く、もっと早く)を掲げ、特車申請や乗入

申請等の許認可手続き処理、地元からの要望・苦情対応は「すばやく、かつ、きめ細やかに」、災害復旧についても最短での復旧対応を心掛けていきます。

事務所のスタッフには、予算が国民の血税であるという自覚を持ち、「無駄のない予算執行」。さらに、予算が少ない中での完璧な地元対応は難しいが、「知恵」を出して、地元のニーズに可能な限り応え、安全で安心できる地域を創っていかうと呼びかけています。



——福岡国道事務所の紹介について

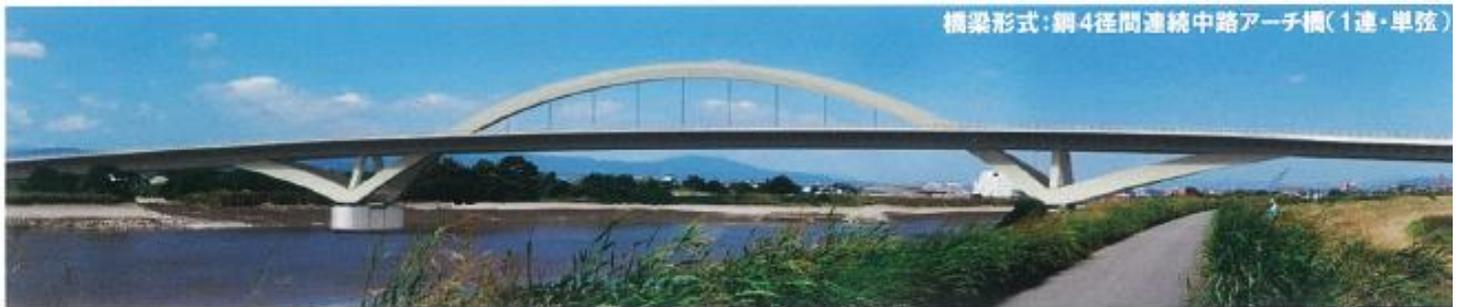
福岡県の西部及び南部の重要都市を結ぶ一般国道3号、201号、202号、208号、209号、210号の6路線に関する改築、電線共同溝整備、維持管理等の事業を行い、管内各市町村の地域

があります。

これらの地域の安全安心な地域社会の実現や地域間の連携強化による地域活性化、国際交流都市としての成長力の強化を図り、生活や産業、社会・文化活動等を支えるため、また、九州・アジアの交流・物流拠点として、その基盤となる直轄道路の安全・円滑・快適な交通を確保するという重要な使命を担い、交流・物流の更なる飛躍に貢献していきます。

平成27年度予算（当初）は、①改築事業費が前年度比108%の115億3,200万円、②交通安全事業費が13億5,600万円（前年度比84%）、③電線共同溝事業費が15億1,000万円（同63%）の合計143億9,800万円（同98%）。その他の予算として維持管理費、調査費、業務取扱費などがあります。

計画を支援しています。管内には、県庁所在地であり、政令指定都市の福岡市（人口150万人）を中心とする福岡都市圏や筑後地域をはじめ周辺16市12町1村（人口170万人）の地方公共団体



橋梁形式：鋼4径間連続中路アーチ橋（1連・単弦）

早津江川橋完成予想図

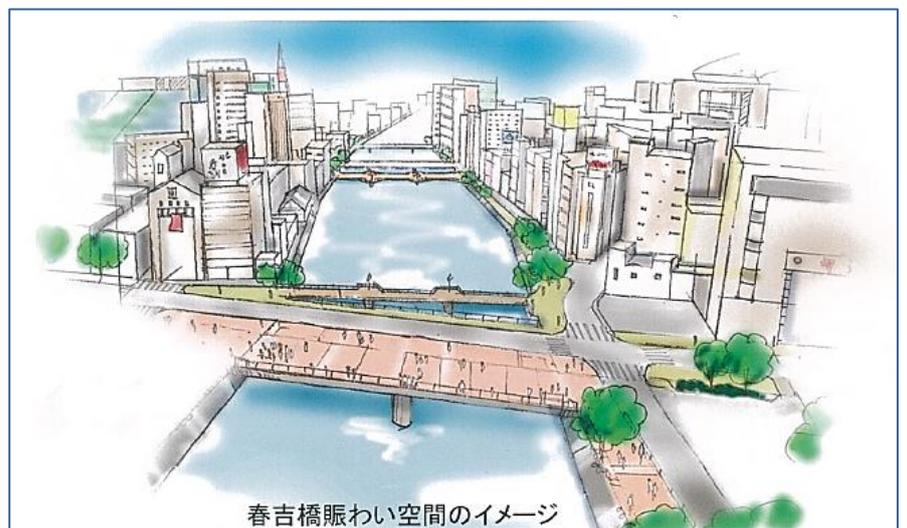
——管内道路事業の主要事業について

安全安心な地域社会の実現のために、日常的な道路の維持管理はもとより、構造物の着実なメンテナンスを実施するための定期点検や長寿命化対策、防災・震災対策として国道202号春吉橋架替事業や周船寺橋架替事業に着手し、平成20年度に事業着手した国道208号浦島橋架替事業は平成30年度を開通目標に事業を推進しています。

交通事故・交通安全対策としては、国道202号御供所町交差点改良、国道209号野町交差点改良等30箇所の整備を進めており、また、国道3号新産業団地入口交差点改良、国道202号二丈福井歩道整備、国道210号保木歩道整備は、平成27年度から新たに事業着手しています。

また、地域間の連携強化や国際交流都市としての成長力の強化を目的に、国道

3号博多バイパス、鳥栖久留米道路、国道208号有明海沿岸道路（大牟田～大川）、大川佐賀道路、国道202号・497号今宿道路、国道210号浮羽バイパス、国道322号八丁峠道路の整備進めています。博多バイパス及び有明海沿岸道路（徳益～柳川西）は、平成29年度を開通目標とし、今宿



春吉橋賑わい空間のイメージ

道路も平成30年度を開通目標として事業を推進

有明海沿岸道路については、佐賀への延伸として平成26年度の筑後川橋に続き、昨年11月末に早津江川橋の起工式を行っています。そのほか、地方創生の拠点整備事業として重点道の駅「うきは」にも着手し、八丁峠道路トンネル（朝倉側）の着工も予定しています。

このような道路整備の中で構造物の整備については、通過する地域の地形、地質、気象、環境及び交通状況などを勘案したうえで構造形式を選定しますが、例えば現道拡幅等の平面道路構造では周辺地域からの出入りや他の道路との接続が容易であるため、隣接地の開発による接続も容易になります。また、バイパスや自動車専用道路等の整備においては、周りの土地より一段高くした構造とし、道路への接続をインターチェンジ形式とすることで、アクセスコントロールされた道路となり、高速走行性の

しています。

向上が図られます。

さらに、道路整備の目的のみならず、山間部などの土地の起伏が激しい地域や土地の地盤高が低く頻繁に浸水する地域を通過する際などの地理的、地質的な制約がある場合には、盛土や切土構造、橋梁・高架橋、掘割、トンネル等の様々な構造物を組み合わせて整備をしています。

このように道路整備においては、その目的のみならず、地形や地質等のその地域特有の課題などを解決するため、多種多様な構造から選定し、組み合わせて一本の道路として整備していますが、中には既存の技術では解決できない問題もあり、そのような際には、民間会社などの努力で日々進化し続ける新技術や新材料等を活用して課題の解決を図っています。

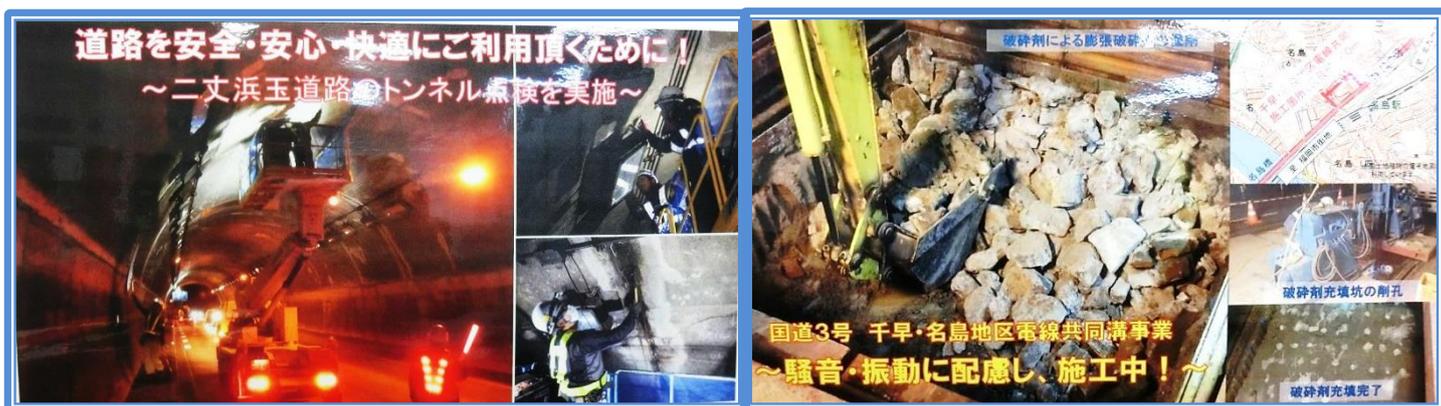
——安全で安心な住みよい地域づくりについて

交通事故対策や渋滞対策としての交通安全事業を管内30箇所で行っています。昨年6月の道路交通法改正で、自転車の通行ルールが強化され、道路管理者の我々としても自転車と歩行者が混在するような空間でなく、自転車と歩行者を分けて、自転車が通行しやすいような環境整備が求められています。また、交通事故対策では、直轄国道だけでなく、事故が起りやすい生活道路を受け持つ自治体の皆さんとも協力しながら進

めていこうということで話し合っています。直轄国道の自転車事故対策の一環としては、筑後市で国道の路肩を拡幅し、自転車と自動車、歩行者の通行を区分するような整備を先行して進めています。

また、住みよい安全な地域づくりについては、直轄国道だけでなく、自治体管理の道路も含めてサポートしていくことが必要になってきます。最近の話題では、本省で「安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関す

る検討委員会」が開かれ議論されていますが、その中で、全国の市町村のうち、自転車の関連事故が多いとか、利用率が高い自治体に対して国として働きかける旨の提言が出される状況です。九州でも福岡市や北九州市、久留米市などが対象になっていますが、3市はそれぞれ自転車の利用促進計画を策定しており、今後はその他の未策定の自治体に計画策定を呼びかけていきたいと考えています。





——改正品確法に伴う事務所として取り組みなどについて

福岡国道事務所では、地場業者の育成をねらいに土木Cランクの分任官発注工事で一括審査方式を採用し、受注が固定化しないような取り組みを行っています。また、九州地方整備局においては、業界の担い手の確保として若手技術者や女性技術者を活用する入札制度の試行を行っています。事務所としても工事及び業務の試行実施について、積極的に対応していかなければならないと考えています。

——28年以降の事業取り組みについて

建設業界の育成は私たちのミッション（使命）でもあります。事務所管内で見ますと、県南地域については有明海沿岸道路の延伸や鳥栖久留米道路などがありますが、県北地域では福岡外環状道路の整備

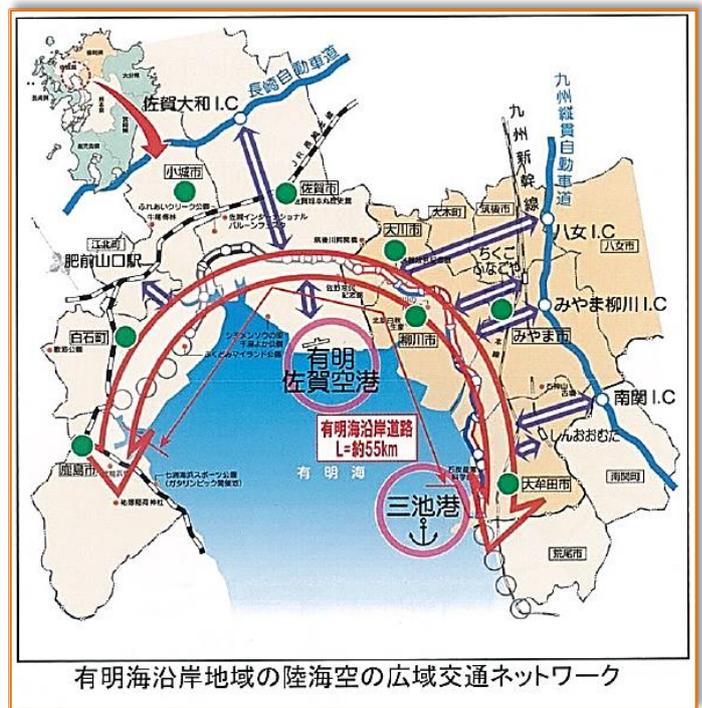
が終わり、博多バイパスも29年度開通予定で事業が少なくなっており、災害時の対応などで大変なことになりますので、仕事として事業をしっかりと確保していかなければならないと思っています。

——これまでの赴任地の思い出は

平成15年4月から有明海沿岸道路出張所の初代所長に赴任しましたが、全国で初めての「プロジェクトチーム」として出張所が誕生しました。当初の職員数は事務・技術関係など総勢26人で、道路整備に伴う調査・設計、関係機関協議、用地交渉・買収、工事発注・工事監督まで全ての業務を担い、予算規模も86億円～185億円（H15～H19年度）と推移し、沿岸道路整備の拠点であり、実質的な事務所でありました。

出張所設置に伴う平成15年度の成果については、地権者に細やかに足を運ぶことなどで、対前年度比2.6倍の用地取得、管理者協議も信頼関係を構築し、スムーズに協議が行われたことで対前年度比2.8倍の成果がありました。地元調整も関係者ともまめに対応することができ、円滑な工事進捗が図れました（同1.9倍）、工事・測量等の説明会は対前年度比4倍となり、無駄のない調査設計やこまめな監督体制などで、品質の高い構造物をつくることができました。

部分開通後は、広域交通ネットワークとのアクセス性が向上し、企業や商業施設、大学などの立



地ポテンシャルも高まり、現在、41社の企業等が進出、増設しています。また、有明佐賀空港の乗客数が増加し、三池港の国際コンテナ貨物量も約24倍に増えるなど、今後の更なる発展を期待しています。

——趣味や生きがいについて

趣味は旅行とウォーキング。毎週スポーツジムに通い、健康管理や体力づくりとリフレッシュを兼ねた水中ウォーキングに励む。座右の銘は、江戸時代の米沢藩主、上杉鷹山の「なせば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」。





横峯正二（よこみねまさじ）

【プロフィール】

出身地：鹿児島県

生年月日：昭和30年12月27日

最終学歴：名城大学理工学部土木工学科卒

昭和49年3月 旧建設省（中部地方建設局 名古屋国道工事事務所）に入省
昭和56年4月 九州地方建設局 宮崎工事事務所
平成2年10月 本州四国連絡橋公団 第三建設局 今治工事事務所
平成9年4月 九州地方整備局 佐伯工事事務所 調査第二課長
平成11年7月 長崎県 土木部 技術情報室 課長補佐
平成13年4月 九州地方整備局 企画部 建設専門官
平成15年4月 九州地方整備局 福岡国道事務 所有明海沿岸道路出張所長
平成18年4月 九州地方整備局 道路部 道路工事課長
平成21年4月 九州地方整備局 延岡河川国道事務所長
平成23年9月 九州地方整備局 道路部 道路調査官
平成26年4月 九州地方整備局 地方事業評価管理官
平成27年4月 現職